令和8年11月6日

辟雍会通信 No.26

〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学辟雍会
hekiyou@u-gakugei.ac.jp

第23回辟雍会全国代表者会議開かれる

10月31日午後1時より3時まで大学本部棟3階会議室で本年度の辟雍会全国代表者会議が開催されました。出席者総数41名。8月に設立された東京都支部を含め18支部の代表が参集されました。今回大学からは所用で欠席された佐々木幸寿学長に代わり君塚仁彦理事・副学長から挨拶をいただき、辟雍会の大学支援に対する謝意に加えて、辟雍会との協力関係をさらに発展させていきたいという大学の方針をお話しいただきました。また、一般社団法人東京学芸大学同窓会の茅原直樹理事長からは、辟雍会東京都支部と連携した活動を進めていくという力強い連帯のご挨拶をいただきました。続いて行われた全体審議において、5月理事会の報告や来年度の活動日程が承認され、東京都支部規約の一部改正についても承認されました。

最後に 時間に制約されながら、各支部からの活動状況報告を受けました。中には今なお会員数が増勢にあるという支部もありましたが、本年度の報告で特徴的であったのは、ほとんどの支部がコロナ以降新規会員の確保に苦慮しているということでした。支部の中核会員の高齢化という事態を踏まえて、新規会員を恒常的に確保していくことは支部の最重要課題であります。情報管理の問題が厳しくなって卒業生との連絡が取りにくいという問題がある上に、最近、学芸大学入学者の首都圏回帰傾向が顕著になってきていることは、全国の地方支部にとって深刻な問題となりつつあります。この問題については、大学とも協力しながら辟雍会全体の問題として新たな対策を講じる必要があるように思われます。（文責：辟雍会会長　馬渕貞利）

キャンパスガイド⑥

人と知、そして記憶をつなぐ場所―東京学芸大学附属図書館の今

今回は、東京学芸大学の学びを支え続けてきた附属図書館について紹介します。ここで授業の合間に本を探したり、試験勉強に励んだりした思い出を持つ方も多いのではないでしょうか。私自身にとっても、ここは司書教諭の資格取得に向けて学習に勤しむ重要な場所となっています。

この記事をまとめるにあたって、私は、総務部学術情報課長の鈴木剛紀さん、同副課長の武田邦宏さん、同利用者サービス係長の小野令耶さんにインタビューをさせていただき、これまでの図書館の歩みやこれからの図書館のあり方、さらには図書館職員としての仕事への思いなどについてお話を伺いました。

静かに学ぶ場所から、学び合う場所へ

長年にわたり東京学芸大学でお仕事をされてきた武田さんのお話によると、1970年代に建設された現在の附属図書館の建物は、この十数年でその姿が大きく変わったそうです。

先ず2014～2015年頃の耐震改修の際に、書架が並んでいた１階に「ラーニングコモンズ」が新設され、自由に動かせる机や椅子が導入されました。さらに2020～2021年の増築工事の際にラーニングコモンズが拡張され、学生が学習できる空間が広がりました。現在は１階のラーニングコモンズが会話のできるエリア、２・３階が静かに学習するエリアとして使い分けられています。静かに読書し、資料を探す場所であった図書館が、学生たちが集い、学び合う場所としても活用されるようになっているのです。

人類の知の蓄積を支える仕事

図書館員としての仕事のやりがいについて、鈴木さんは次のように語っておられます。

「図書館で所蔵している書物は、これまで人類が積み重ねてきた学術研究の成果の結晶といえるものです。図書館の仕事は、そうした媒体を通して科学や人類史の発展そのものに関わる仕事なのだと感じています。」

さらに鈴木さんは、書物に秘められた文化史の奥深さについても触れられ、「私たち人類は、数千年にわたって文字を書き、読んできました。現在のデジタル化やAIの時代に至るまでの書物史には、尽きることのない知的関心をおぼえます。書物をめぐる状況が大きな転換期にあるなかで、利用者の皆さんのためにどういうことができるのかを考えていますが、そうした点にやりがいを感じますね。」と語っておられます。



松山明日香さん

つまり、図書館員の方がたのお仕事は、一冊の本に詰まっている先人たちの知識や思索の成果を守り未来へとつないでいくこと、すなわち人類知の再生産に携わる大切な仕事なのだということを、私は改めて知ることができました。（次ページにつづく）

思いがけない本との出会いを

学芸大学の附属図書館では、さまざまな企画展示も行われています。小野さんのお話しによると、学生の「学習サポータ」がテーマや資料を選んで行う企画展示もあり、これまでに「学芸万博」や「感情博物館」などが開催されたそうです。また、大学の授業で制作された絵本の展示や写真部の作品展なども行われるそうです。

鈴木さんは、課題研究や卒業論文のためだけでなく、館内を歩きながら多様な書籍に出会ってほしいと語っておられます。思いがけない本を偶然発見したことによって、その一冊が新たな学びの出発点になることもあるのです。

卒業生の思いが、学生の学びを支える

辟雍会と附属図書館とのつながりも知ることができました。図書館１階にある「教職支援コーナー」は、東京学芸大学創基150周年記念基金と、辟雍会および一般社団法人東京学芸大学同窓会の支援で整備されたものでした。特に多額の費用を必要とする教員採用試験の過去問題集は主に辟雍会の支援で毎年更新され、教職を志す学生たちに活用されているそうです。今回インタビューに応えてくださった方がたは、この機会をお借りして辟雍会の皆様にお礼を申し上げます、とおっしゃっていました。

また、図書館の３階には、本学の歴史に関する貴重な資料を保存・公開している大学史資料室があります。学芸大学の図書館は、大学の歴史資料館のような機能も兼ね備えた場所でもあるのです。

AI時代にも変わらない図書館の価値

生成AIの利用が急速に普及していることによって、私たちの情報入手の方法も大きく変化しつつあります。こうした中にあって、鈴木さんは「デジタルとリアル、その両方が活かされるような場として、今後も図書館はあり続けるべきではないか。」と語っておられます。すなわち、図書館では電子資料の充実を図る一方で、人が集い、対話し、学ぶ場所としての役割も大切にしていく、ということでしょうか。また武田さんは、生成AIが誤った情報を示す「ハルシネーション」への注意も強調しておられました。情報が容易に得られる時代だからこそ、その確かさを自ら見極めることがますます重要になってきています。

在学生・卒業生の皆さんへ

小野さんが特に在学生に活用を勧めておられたのが「レファレンスサービス」です。資料探しや図書検索に困った際には、気軽に図書館員に相談してくださいということでした。また、卒業生も引き続き図書館を利用することができ、「利用証」を作成すれば図書の貸出も可能になっているそうです。

情報伝達や学びの形が変わっても、人と知をつないでいく図書館の営みは変わりません。卒業生の皆さんも、思いがけない一冊との出会いを求めて母校の図書館にアクセスしてみませんか？ できれば、久しぶりに直接学芸大学図書館を訪ねられることをお薦めします。図書館の入口横には焼き立ての美味しいパンとドリンク類を一緒に召し上がることのできるnote-cafeも併設されています。

取材・文責：松山明日香（東京学芸大学大学院）



学生の企画展示




教職支援コーナー



【大学史資料室 展示のご案内】

常設展示「東京学芸大学のあゆみ 大学での学びと学生生活」

＊ 会期：2026年10月13日（火）～12月25日（金）
＊ 開室時間：平日10:00～16:00
＊ 会場：附属図書館３階 大学史資料室

【大学史資料室ギャラリートーク】

＊ 日時：2026年11月11日（水）13:30～14:00
＊ 会場：附属図書館１階 ラーニングコモンズ グループワークエリア
＊ 講師：牛木専門研究員
＊ 定員：15名（事前受付、申込締切11月10日）
＊ お申込み：https://lib.u-gakugei.ac.jp/news/20261026



大学史資料室の常設展示

News

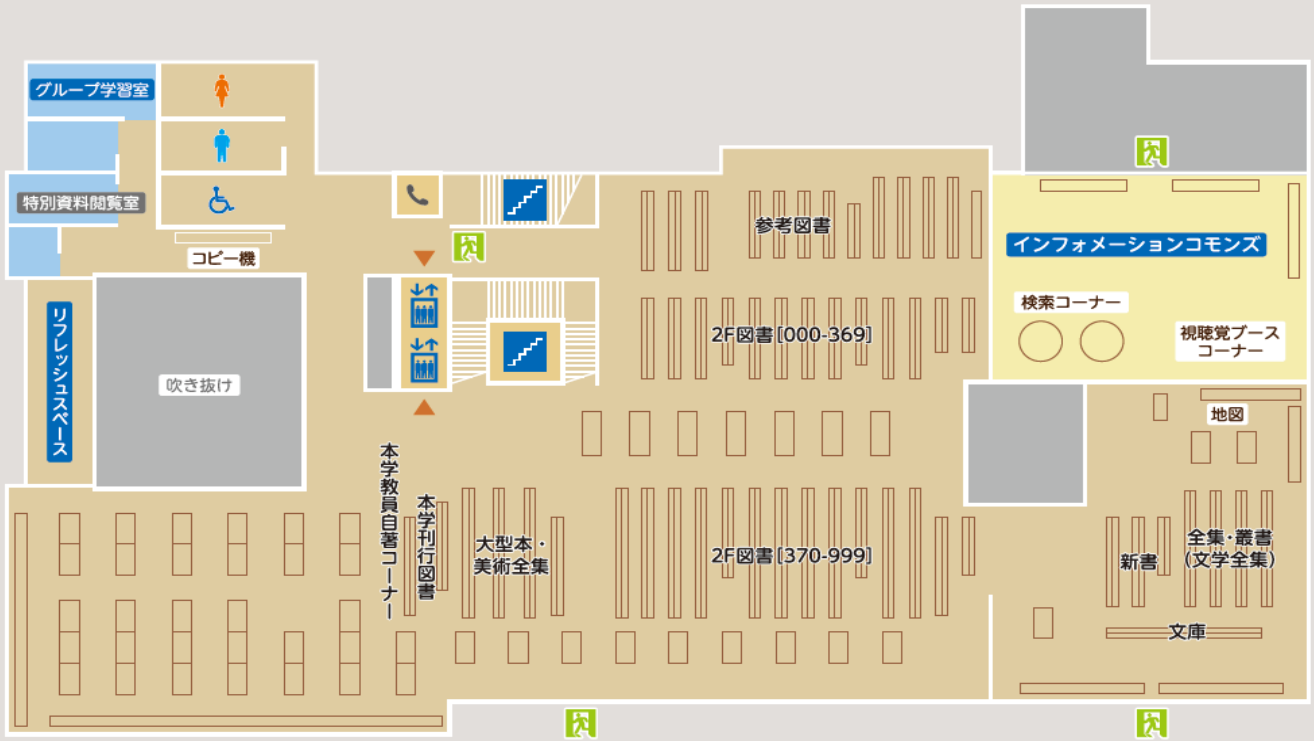
東京学芸大学附属図書館については次号で追加リポートを掲載する予定です。ご期待ください。なお、本号の次ページ以降に図書館各フロアーの見取図を掲げておきます。図書館を利用される際に参考にしてください。



1 階


留学生用図書
新聞
グローバルエリア
コピーコーナー
教職支援コーナー
新着図書
学校図書館コーナー
視聴覚資料
教育実習用図書
コピー機
教科書等
資料エリア
アクティブエリア
地下書庫入室ゲート
カウンター
事務スペース
note cafe
修士・博士論文閲覧室
セミナーエリア
展示コーナー
ラーニングコモンズ
グループワークエリア

2 階


グループ学習室
特別資料閲覧室
コピー機
リフレッシュスペース
吹き抜け
本学教員自著コーナー
本学刊行図書
大型本・美術全集
参考図書
2F図書[000-369]
2F図書[370-999]
インフォメーションコモンズ
検索コーナー
視聴覚ブースコーナー
地図
新書
全集・叢書(文学全集)
文庫


3 階
会議室
外国語雑誌
新着外国語雑誌
リフレッシュスペース
外国語雑誌
新着日本語雑誌
日本語雑誌
日本語雑誌
本学関係紀要
大学紀要
大学史資料室
事務室
教職大学院教室
※入口は東側 1 階
教職大学院棟専用玄関


地下書庫
特大型図書
大型図書
新聞
参考図書
竹早文庫
寄贈別置
瀬川文庫
和装本
梶文庫
図書〔000-299〕
国勢調査報告
絵本・児童図書
大学紀要
日本語雑誌
外国語雑誌
図書〔300-399〕
教育学全集
事務用スペース
図書〔400-799〕
教科書・指導書
図書〔800-999〕
貴重書庫